



R6 牧山小だより

思いやりの心を持ち、自ら学び自ら考え、心身ともに元気に仲良く活動できる牧山っ子を目指して！！



北九州市立牧山小学校
文責 校長 近藤幸子

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

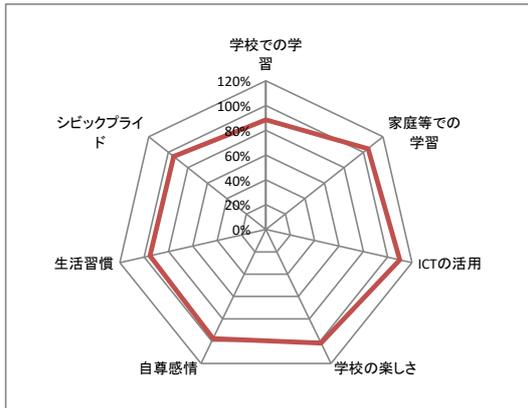
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	全体的に平均正答率は、全国正答率を下回っている。特に「書くこと・読むこと」の領域は、全国平均正答率と比べて、平均正答率が低い。また、記述式の問いに対して、無回答率が高くなっている。一方で、「情報の扱い方に関する事項」の領域や「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、全国平均正答率と同程度である。
算数	全体的に平均正答率は、全国正答率を下回っている。特に「図形」の領域は、全国平均正答率と比べて、平均正答率が低い。また、記述式の問いに対して、無回答率が高くなっている。一方で、「変化と関係」の領域の平均正答率は、全国平均正答率と同程度である。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「友達関係に満足しているか」「先生は、よいところを認めてくれているか」の問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。一方で、「自分にはよいところはあるか」の問いに対して肯定的な回答は約70%である。他者から認められることで、自己肯定感を高めることができているが、児童自身が自分のよさを価値付けられていない。 ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の問いや「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていたか」の問いに対する肯定的な回答の割合が低い。学習に対して、主体的に関わろうとする意識が高められていない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

児童が主体的に学びを進めていくことができるように、また、自己の学びのよさを感じられるように、学習計画を見直したり、ICTを活用した授業スタイルを進めたりすることで、児童の学習への興味関心を高める。読書活動を推進し、読書の感想を話したり、書いたりする活動に取り組む。さらに、文章表現の効果について児童が興味をもって学習できるように努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学校だよりや学年だより、懇談会等を通して、本校の取組や学習の課題を保護者に周知し、啓発を行う。また、家庭での学習習慣について、保護者と連携しながら、継続的に児童に指導していく。